



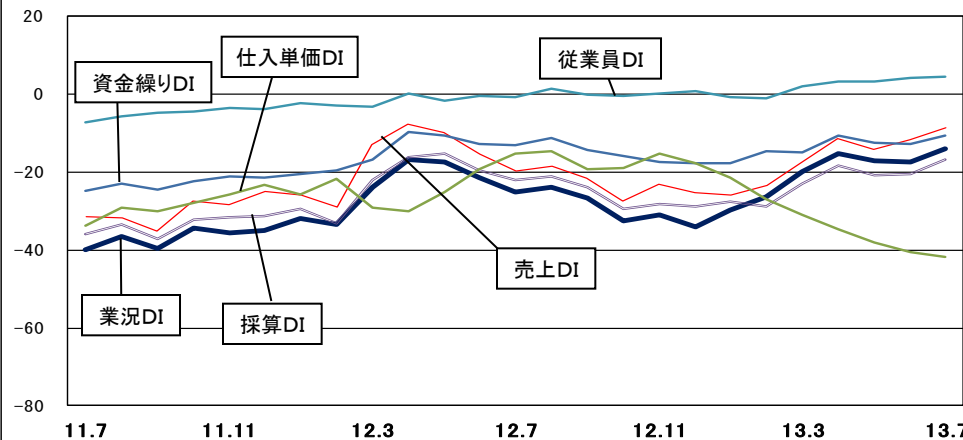
業況DIは、3カ月ぶりの改善も、仕入価格上昇に対する不安が残る

ポイント

▶7月の全産業合計の業況DIは、▲14.1と、前月から+3.2ポイントの改善。好調な建設業や、持ち直し傾向にある輸出関連企業が下支えしたほか、個人消費も高額品を中心に堅調なことから、回復基調が続いている。他方で、燃料(原油、ガス)や原材料の価格上昇・高止まりに加え、人件費、電力料金などのコスト負担が増している状況に変わりはなく、中小企業の中には、思うように業績改善が進まず、景気回復の実感に乏しいとの声も聞かれる

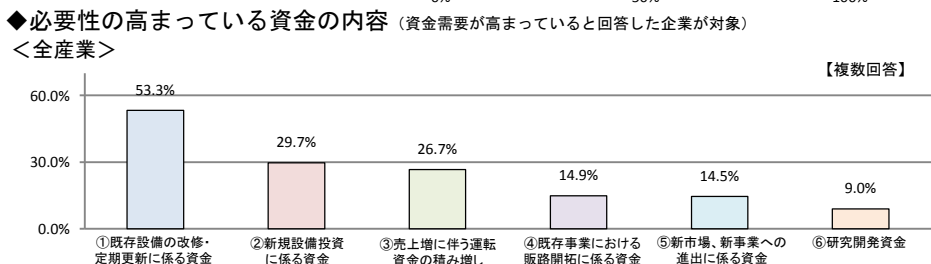
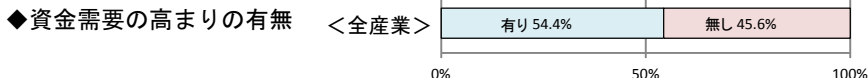
▶先行きについては、先行き見通しDIが▲9.5(今月比+4.6ポイント)と、改善する見込み。燃料・原材料などの価格動向や人件費、電力料金をはじめとしたコスト負担の増大を懸念する声は依然として多いものの、好調が続く建設業や持ち直し傾向にある製造業をけん引役に、回復基調は続く見通し

LOBO全産業合計の各DIの推移(2011年7月以降)

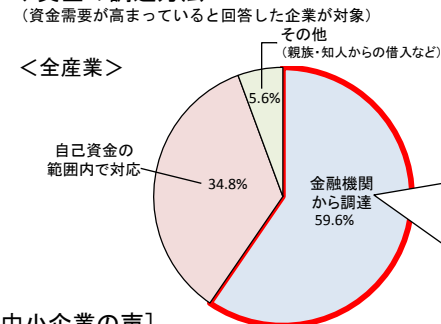


資金需要の現状について

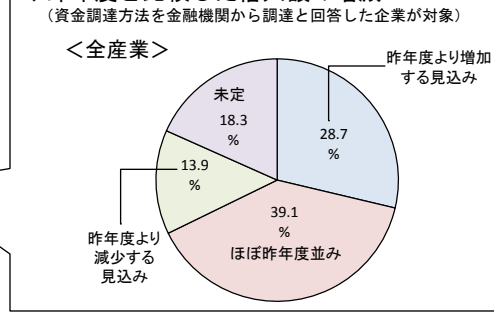
- ▶資金需要が高まっているとする企業(全産業)は54.4%
- ▶必要性が高まっている資金の内容をみると、「既存設備の改修・定期更新に係る資金」が53.3%と最も多く、「新規設備投資に係る資金」は29.7%
- ▶業種別にみると、公共工事や住宅関連の受注が好調な建設業では「売上増に伴う運転資金の積み増し」が57.9%と他の業種に比べて際立つ
- ▶資金の調達方法は「金融機関から調達」が59.6%、「自己資金の範囲内で対応」が34.8%
- ▶必要な資金を金融機関から調達する企業(全産業)のうち、借入額について「ほぼ昨年度並み」が39.1%と最も多いが、「昨年度より増加する見込み」が28.7%と一部では資金需要の増加に伴い、借入に積極的な姿勢もみられる



◆資金の調達方法



◆昨年度と比較した借入額の増減



[中小企業の声]

- ▶受注は増えているが、技術者不足に伴う人件費高騰や仕入の増加により、一時的に運転資金が不足している (札幌 電気工事業)
- ▶受注が好調であることから、金融機関からの融資により設備投資を計画。ただし、借入負担が大きい新規設備の導入はせず、既存設備の更新および中古設備の導入に止める予定 (伊勢崎 自動車部品製造業)
- ▶金型の購入資金を調達したいが、既存借入をリスクしているので金融機関からの新規融資が困難 (ねじ製造業)
- ▶消費税引き上げ前の駆け込みなどにより受注が好調だが、支払いも増えており運転資金の調達が課題となっている (春日井 建築工事業)
- ▶大手半導体メーカーの生産縮小に伴い、自社製品に利用しているマイコン等の製造が終了。当面の対応のため在庫の積み増しが必要となったが、自己資金だけでは十分な量の確保が困難であることから金融機関から借入を行う (伊勢 制御機器製造業)